

手賀沼におけるオオヨシキリのさえずり 個体数の5年間の経年変化

大山紀子¹・百瀬邦和²・平岡考²・斉藤安行¹・鶴見みや古²

はじめに

手賀沼は千葉県の北西部に位置する利根川水系の沼で、周囲は約17km、水鳥類の生息地として知られている。この沼岸沿いに広がるヨシ原には、毎年多数のオオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* が渡来し、繁殖している。1987年から1991年までの5年間、手賀沼の代表的な繁殖鳥のひとつであるオオヨシキリの生息数を知るための方法のひとつとして、確認が容易なさえずっている個体数を調査した。

調査地および調査方法

調査は手賀沼の堤防より沼側およびその反対側、約25m以内で行った（図1）。調査地の堤防より沼側の植生は、マコモ、ヒメガマ、ヨシ、ネズミムギ等の水生植物群落が中心で、堤防の沼と反対側には水田が広がっている。手賀沼の北岸は岸に沿って遊歩道が整備されており、南岸は高さ約3mの堤防で囲まれている。

この手賀沼全域を上沼北岸、上沼南岸、下沼北岸、下沼南岸の四つの地域に分け、4グループで同時に観察を行った。

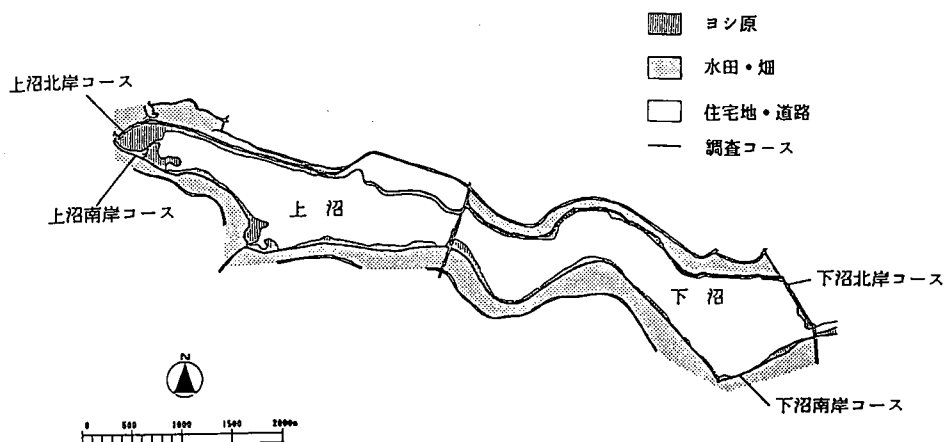


図1 調査地概要（手賀沼）

1. 〒270-11千葉県我孫子市高野山234-3 我孫子市鳥の博物館
2. 〒270-11千葉県我孫子市高野山115 (財)山階鳥類研究所

調査は徒歩で遊歩道および堤防の上を歩き、調査地内で発見したオオヨシキリの観察地点を10,000分の1の地図上に記録した。なお、さえずりしている個体とそれ以外の目撃個体は区別して記録した。また、必要に応じて8倍から10倍の双眼鏡を用いた。

調査期間は1987年から1991年までの5年間で、毎年1回、5月下旬から6月上旬に行った。調査年月日、調査時間および調査時の天候を表1に示す。

表1 調査年月日、調査時間および調査時の天候

調査年	調査月日	調査時間	天候
1987	5月21日	8:00~12:06	晴れ
1988	6月9日	8:20~12:30	くもり
1989	5月25日	8:20~10:55	くもり
1990	5月24日	8:15~10:50	くもり
1991	5月21日	8:09~12:55	晴れ

結 果

図2から図6はそれぞれ、手賀沼全域、上沼北岸、上沼南岸、下沼北岸、下沼南岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数と総個体数の経年変化（1987年から1991年）を示したものである。ここで総個体数とは、さえずり個体数とその他の目撃個体数との合計とした。

手賀沼全域について見ると、さえずり個体数は年々減少する傾向にあり、1991年には1987年の75%にまで減少した。

また下沼北岸および下沼南岸でも年々減少の傾向がみられ、下沼北岸では、1991年は1987年の59%、下沼南岸では58%となった。

上沼北岸では、さえずり個体数は1987年から1990年まではほぼ一定であったが、1991年になって増加し、前年の155%となった。

上沼南岸では、1988年から1990年にかけてはさえずり個体数は増加したが、1991年には急激に減少し、前年の74%となった。

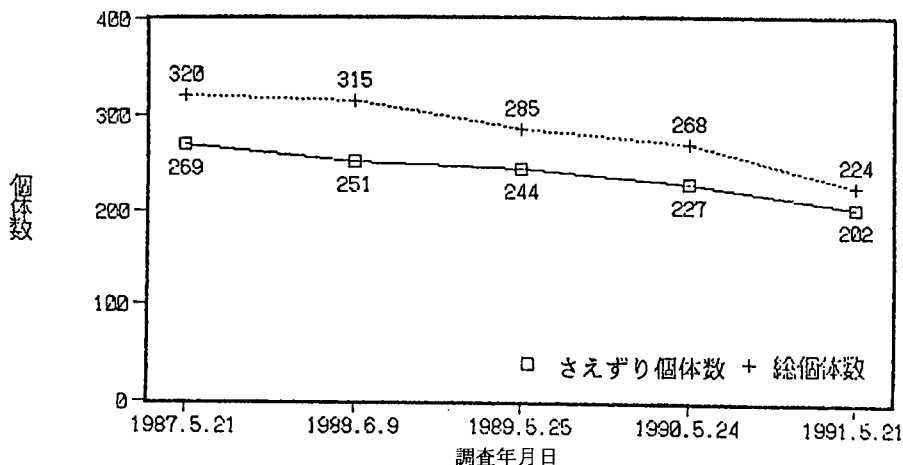


図2 手賀沼におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化

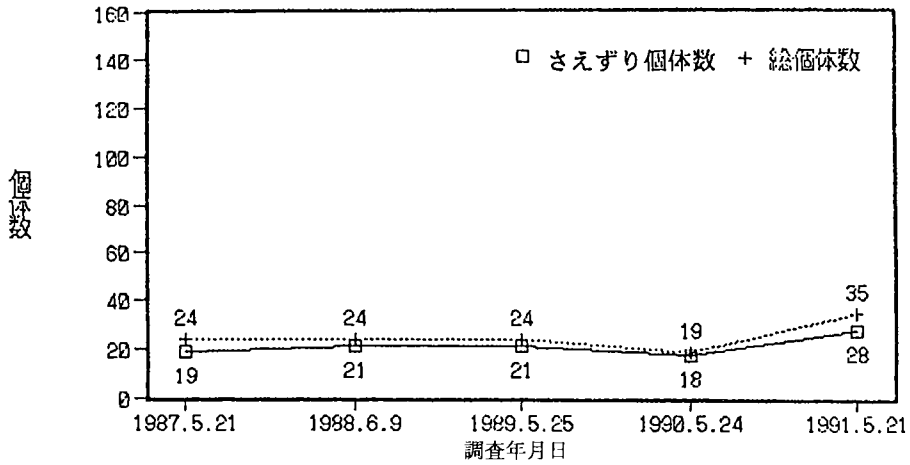


図3 手賀沼上沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化

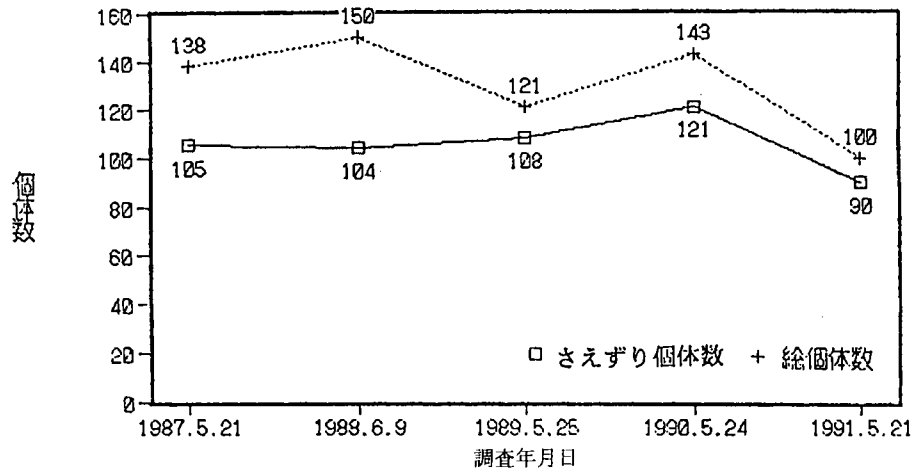


図4 手賀沼上沼南岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化

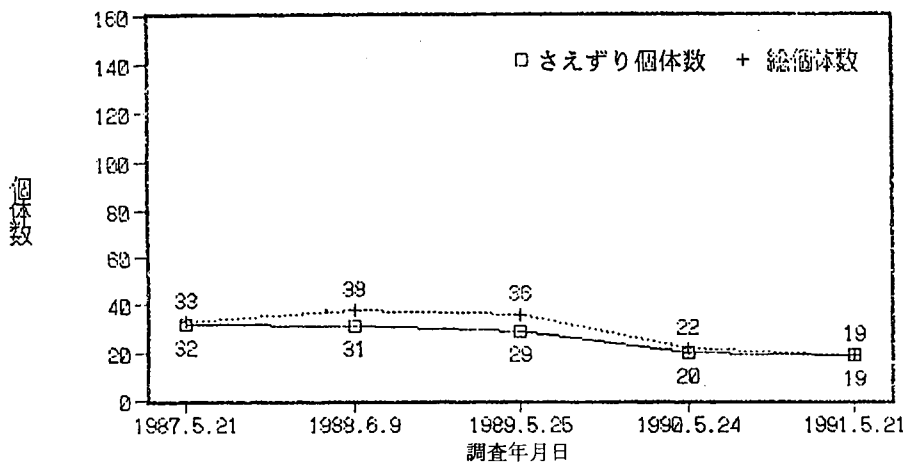


図5 手賀沼下沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化

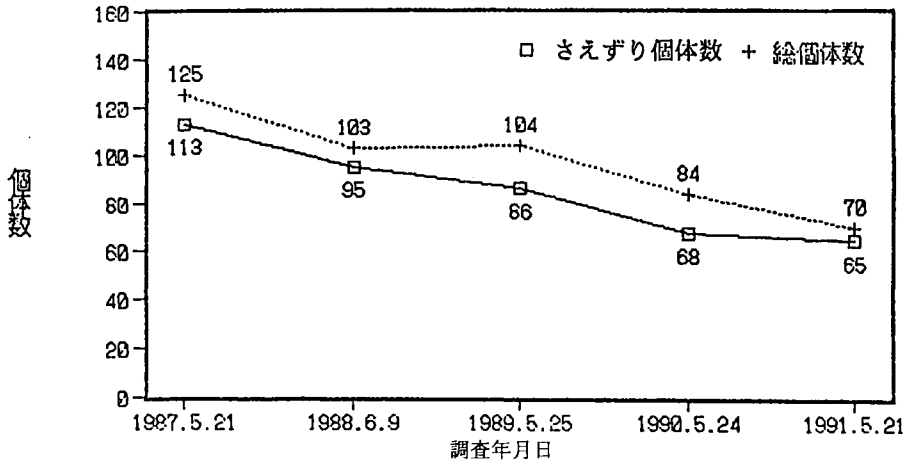


図6 手賀沼下沼南岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の経年変化

考 察

オオヨシキリのさえずり個体数の変動の要因としては、調査時期のちがいや気候の変動などの影響も考えられる。大山(1992)によれば、手賀沼でのさえずり個体数のピークは6月11日に最大となり、6月11日には6月4日の1.5倍の値を示している。しかし、さえずり個体数の変動の最も大きな要因として、そのさえずり場所であるヨシ原や水田の減少が考えられる。また、オオヨシキリは採食地をヨシ原周辺の水田にも依存しているものがあるという報告がある(羽田他 1968)。

ヨシ原や水田の減少の主たる要因として、調査地内で行われた道路工事の影響が考えられる。上沼北岸では、1982年度および1985年度から1988年度にかけて道路改良工事が行われ、その完了後一年たった1991年になって、さえずり個体数が増加している。しかし、1991年のさえずり個体数の増加は、他の調査地でさえずり場所を確保できなかった個体がこの地域に移動してきた可能性も考えられる。また、下沼南岸の調査地内でも資材輸送用道路の建設にともなう休耕田の減少が、さえずり個体数の減少の大きな原因になっていると思われる。

また、総個体数においてもさえずり個体数と同時期の増減が見られたため、オオヨシキリのさえずり個体数からそこに生息する全個体数を類推する事は、ある程度可能であると思われる。

調査した4地域(上沼北岸、上沼南岸、下沼北岸、下沼南岸)のさえずり個体数は、調査コースの距離にあまり差がないにもかかわらず大きな差を生じたが、このさえずり個体数はそれぞれの地域のヨシ原の面積に対応していて、ヨシ原が広いほどオオヨシキリのさえずり個体数は多かった。

今後もこの調査を続け、また、個体数の今後の変化を追うとともにその要因についても検討したい。

謝 辞

調査にご協力いただいた(財)山階鳥類研究所の吉安京子氏、石本あゆみ氏に心からお礼申し上げる。

引用文献

羽田健三・寺島けさい. 1968. オオヨシキリの生活史に関する研究 I 繁殖生活. 日本生態学会誌
18 (3) : 100-109 .

大山紀子. 1992. オオヨシキリのさえずり個体数の季節変化. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 1
(印刷中).

**Annual change of the number of singing males of the Oriental Great Reed Warbler
(*Acrocephalus orientalis*) at Lake Teganuma during 5 years.**

Noriko Ohyama¹, Kunikazu Momose², Takashi Hiraoka², Yasuyuki Saito¹, Miyako Tsurumi²

1. Abiko City Museum of Birds. Kohnoyama 234-3, Abiko, Chiba 270-11, Japan.

2. Yamashina Institute for Ornithology. Kohnoyama 115, Abiko, Chiba 270-11, Japan.